研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
C-780		21-323	慶應義塾大学　加藤眞三

題名（原題／訳）

A Randomized Trial of Home Blood-Pressure Reduction by Alcohol Guidance During Outpatient Visits: OSAKE Study

外来通院中のアルコール指導による家庭血圧低下の無作為化試験。OSAKE スタディ

執筆者

Mai Kabayama [1], Yuya Akagi [1], Naoko Wada [1], Atsuko Higuchi [1], Michio Tamatani [2], Jun Tomita [3], Yukako Nakata [3], Shin Takiuchi [4], Koichi Yamamoto [5], Ken Sugimoto [5], Ayumi Shintani [6], Hiromi Rakugi [5], Kei Kamide [1]

掲載誌

Am J Hypertens. 2021 Oct 27;34(10):1108-1115. doi: 10.1093

キーワード	PMID
アルコール指導、血圧、家庭血圧、高血圧、外来患者	34023888

要　旨

背景　外来受診中の男性高血圧患者を対象に、看護師による朝の家庭血圧（HBP）コントロールのためのアルコール指導の効果を検証する。

方法　外来患者のうち，HBP が 135/85mmHg 以上で過度の飲酒（アルコール量 210g/週以上または習慣的に 60g/日以上）の男性患者 53 名を無作為化試験に登録した。患者は，看護師主導のアルコール指導介入群または対照群に割り付けられた。主要アウトカムは，6 ヵ月後の連続 5 日間の平均 HBP とアルコール摂取量であった。

結果　28 名の患者が介入群に、25 名の患者が対照群に無作為に割り付けられた（平均年齢；それぞれ 62.7 歳、64.5 歳）。ベースライン時、両群はほとんどの特性において良好なバランスを保っていた。6 ヵ月後の平均 HBP は、介入群 131/82mmHg に対して対照群 145/87mmHg であった（SBP <0.001，DBP = 0.09）。HBP 値が 135/85mmHg 未満になったのは，介入群 55.6% vs 対照群 16.7%（P = 0.004）であった．6 ヵ月後のアルコール摂取量は、それぞれ 256 ± 206 g/w vs 413 ± 260 g/w であった（P = 0.020）。

結論　外来通院中の男性高血圧患者を対象に，看護師によるアルコール指導の HBP コントロールの有効性を確認した。